

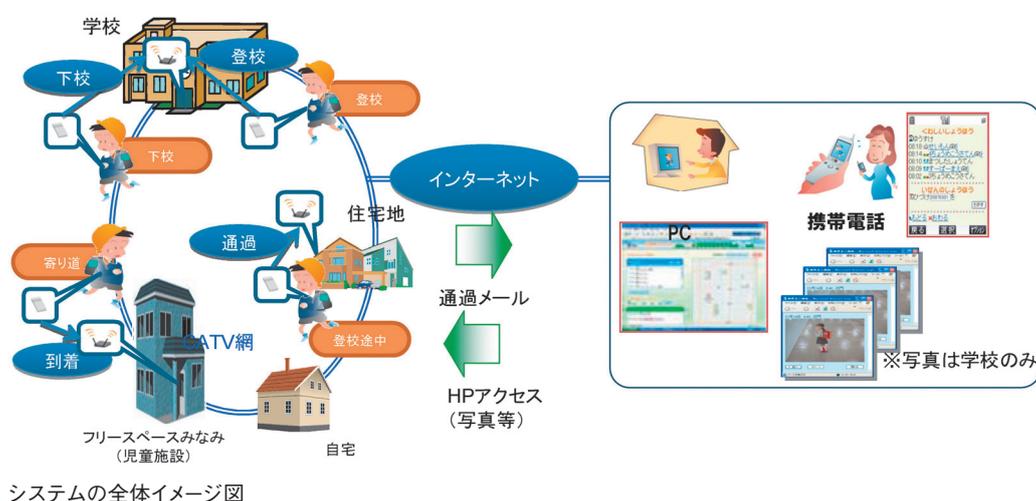
2.1.3 「地域と創る街なか児童見守りシステム」モデル事業(神奈川県横浜市南区)

【概要】

横浜市南区の人口は約20万人、横浜市の区の中ではそれほど大きくありませんが、人口密度は市内平均の2倍近い15,581人/km²もあり2位以下を引き離して最も高く、また高齢化率も市内で最も高くなっています。さらに区内には、子どもたちが立ち入ることは好ましくないと感じている繁華街もあります。

これまで地域の人的ネットワークによる見守りがボランティアやNPOの手で行われてきましたが、これに携わる人々の高齢化に伴い、体力的な負担も増大する一方であるという懸念が生じています。そこで、地域で児童施設を運営しているNPO法人教育支援協会を中心とした事務局を立ち上げ、子どもたちの行動をより詳細に把握できる「通学見守りタイプ」の児童見守りシステムの導入が図られました。

【平成18年度 地域児童見守りシステムモデル事業】



【コラム】

このシステムで実現する機能と成果を記します。

① 登下校確認

児童は固有のIDが割り当てられた電子タグを登下校時に所持します。児童が設置されたセンサーノードの近くを通過すると、センサーノードが児童のタグを検知し、Webブラウザによる確認と、通過検出時のメール通知による2つの方法により、保護者等への状況の通知を行います。

メール通知は、校門でタグを検出した場合の登下校通知メールと、校門以外のセンサーノードで検出した場合の通過通知メールがあり、それぞれメールを受信する可否かは、保護者が自由に設定することが可能です。

登下校については、検知した時刻によって区別を行います。また通過通知メールは、通知するポイントを、学校以外の任意のポイントから一つ選択することが可能です。

一方、Webブラウザによる確認は、保護者がパソコン又は携帯電話からサイトにアクセスし、児童の通過履歴について、検知時刻と検知ポイントの履歴を確認することが可能です。パッシブタグが検知された場合は、カメラに撮像された画像を閲覧することも可能です。

② 情報提供

教職員から保護者に対してWebおよび電子メールを使った一斉情報提供を行う仕組みも今回導入した児童見守りパッケージソフト（教職員が使用できる、メール配信や児童出席状況の確認が可能なソフト）には実



特集 3

あなたが住む街の安心安全への取組

装されていますが、他のシステムで既に実施されているため、本事業では見守りシステム利用者向けの案内程度にしか活用していません。

次に、成果を記します。

① システム面の主な成果

小学校の校門だけでなく、主な通学路や児童の自宅等、小学校の学区全体にセンサーノードを設置することによって、電子タグを用いた従来に類のない広域な児童見守りサービスを実現することが出来ました。

また、当初目論んでいたとおり、電子タグ利用のメリットである子供に特別な操作をさせることなく通過情報を保護者に伝えることができ、保護者のアンケート結果からも良い評価を得ています。また映像を付加することの安心感に対する評価も好意的であり、システムの有用性が検証されました。

② 運用面の主な成果

テスト運用開始当初、使い方に関する問合せや、誤検知に関する問合せ等が寄せられましたが、NPO法人である教育支援協会を中心とした事務局による使用方法に関する指導やシステム調整を行った結果、本運用開始後は問合せも減少し、安定したシステム運用が実現できました。また、本モデル事業の目的も最終的に多くの方に理解頂き多くのボランティアの方にセンサーノードの設置に関してご協力頂くことが出来ました。ボランティアを対象としたアンケート結果からは約7割の方から今後も無償で協力したいとの回答を得ています。自治体、学校関係者の絶大な協力があつたからこそですが、NPO法人教育支援協会でも町ぐるみの安心・安全の機運を高めるシステムの運用が可能となることを示せたことは大きな成果です。

[事業費(うち、国からの補助額・委託額等)]

7,992万円(総務省、地域ICT利活用モデル構築事業)

(問い合わせ先)

特定非営利活動法人 教育支援協会

e-mail: super-k12@mua.biglobe.ne.jp

出典: 地域児童見守りシステムモデル事業 事例集

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2009/pdf/090109_2_sk.pdf

児童見守りシステム導入の手引書

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2009/pdf/090109_2_tb.pdf